

「日米共同理科教育ネットワーク・プログラム」の研究成果を発表する日米の生徒たち（28日、白浜町の京都大学瀬戸臨海実験所で）



日米共同理科教育ネットワーク 元文部大臣が視察

元文部大臣の有馬朗人さんと元文部省初等中等教育局長の辻村哲夫さんが28日、白浜町の京都大学瀬戸臨海実験所を訪問して「日米共同理科教育ネットワーク・プログラム」を視察した。日米の生徒たちが、プログラムの研究成果を発表した。

同プログラムは「日米教育委員会フルブライト・メモリアル基金（FME）」のマスターティーチャープログラム（MTP）に参加している日米の中学校、高校の生徒たちを対象にした交流プログラム。

交流プログラムには、田辺商業高校から教員2人と生物部員ら5人、アメリカ・フロリダ州ナイスビル高校から教員2人と生徒5人、石川

県小松市とミシガン州デトロイト郊外の中学校からも教員と生徒が参加した。

交流プログラムのテーマは中学生が「カエルと水辺環境」、高校生が「海洋生物」。同実験所に合宿して、中学生は京都大学大学院人間・環境学研究所の両生類の専門家から、高校生は実験所長の白山義久さんから研究方法について直接指導を受けながら、理科の楽しさを学んだ。

生徒たちは英語と日本語の2カ国語で報告。中学生らは、カエルの鳴き声や胃の内容物を調査。「カエルは大切な生き物だから守らなければならない」と結論づけた。高校生らは「高潮帯には見られたヤドカリが低潮帯では見られなかった」などと結果を報告した後、「言葉の違いに四苦八苦しながらも交流できた。ナイスビル高校の行動力やリーダーシップを見習いたい」と話した。